二〇二一年度

適性検査Ⅰ

注意

1 問題は1のみで、**3ページ**にわたって印刷してあります。
2 検査時間は**五十分**で、終わりは**午前九時五十分**です。
3 声を出して読んではいけません。
4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい**。
5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
6 **受検番号**を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

共立女子第二中学校

問題は次のページからです。

1 次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。（本文には一部改めたところがあります）

２０１９年12月４日、新聞各紙が一斉に「日本の読解力15位」「続落」「後退」と報じました。79ヶ国・地域の15歳（日本は高校1年生）約60万人の生徒を対象に実施された２０１８年の「ＰＩＳＡ(学習到達度調査)」で、日本の読解力の順位が、前回２０１５年の８位（５１６点）から15位（５０４点）に下がったというニュースです。

日本経済新聞は、「読解力、過去最低の15位」とショッキングな大見出しを打ちました。読売新聞は翌５日も、このニュースを受けて「国語力が危ない」という連載記事を一面トップに掲載し、「この公園には滑り台をする」「文章作れぬ若者」と見出しをつけています。ダウンタウンの松本人志さんもツイッターで「日本の子供達の読解力が世界的にみて劣ってるらしい。。。」と話題にするなど、この「読解力15位」のニュースは波紋を広げました。

ＰＩＳＡ調査とは、経済協力開発機構（ＯＥＣＤ）が実施している国際的な学習到達度調査で、ＰＩＳＡは Programme for International Student Assessment（国際生徒評価のためのプログラム）の略称です。「21世紀に必要となる主要な資質・能力」として、読解力、数学的*1リテラシー、科学的リテラシーの３つを調査しています。この２０１８年調査において、日本の数学的リテラシーは６位（５２７点）、科学的リテラシーは５位（５２９点）で、世界トップクラスの水準を維持していました。読解力だけが大幅に順位を下げたということで、大きく報じられたのです。

さて、この「読解力」、訓読みすれば「読み解く力」ですが、これはそもそもどんな力を指すのでしょうか。

「小説を読んで登場人物の気持ちを想像する」「評論を読んで著者の主張を考える」といった、国語の授業で問われていたことを思い浮かべる方も多いかもしれません。

それももちろん「読解力」で、学びの場で重視される力です。しかし私は読解力というものを、もっと広義にとらえたほうがいいのではないかと考えています。

読解力は、国語の授業中だけではなく、生きていく上で常に必要となる力です。日常生活においても、住宅や携帯電話の契約書、税金や保険の手続き書類、友人とのメールやＳＮＳでのやりとりなど、正しく理解すべき文章は身の回りにあふれています。

仕事でも、上司や同僚、取引先からのメール、企画書、仕様書、発注書、契約書など、さまざまな文章を読む機会があるでしょう。それらを読んで理解する力がないと、思わぬ誤解を招いたり、コミュニケーションがとれなかったり、仕事自体が立ち行かなくなったりしてしまいます。

文章だけでなく、会話にも読解力は必要です。「回りくどい言い方をしているけれど、この人の本音は違うな」「説明が下手だけれど、要するにこういうことを言いたいんだな」などと、相手の意図をこちらで察するとい

うことです。

たとえば、「大丈夫」という言葉は、状況次第でさまざまな意味にとれるため、読解力がいる言葉だと言えるでしょう。転んだ子どもに「大丈夫？」と聞いて、相手が笑顔で元気よく「大丈夫！」と答えたら、「そんなに痛くなかったよ」だとか「問題ないよ」とかいった意味になるでしょう。しかし元気がなく口数が少なくなった同僚に「大丈夫？」と聞くという状況では、相手がいくら「大丈夫です！」と言ったとしても、それは心配させまいという気遣いだったり、強がりだったりで、本当は大丈夫ではない、と読み解くほうが自然でしょう。

他にも「その発想はユニークだね」というセリフを、あなたはどう受け止めるでしょうか。これも状況によって「独創的で本当に素晴らしい」という賞賛なのか、「面白いけれど、ウチの会社の実情を考えたら到底無理だね」という含みのある言い方なのか、「面白いけどウケ狙いでしょ？」と呆れているのか、あるいは「話にならないよ」と馬鹿にしているのか、さまざまな意味に読み解けるのではないでしょうか。

状況次第というのはつまり、そこに至るまでの文脈だったり、相手の表情や態度など言葉以外の情報「ノンバーバル（言葉を用いない）コミュニケーション」だったりが関係するということです。

２０２０年春、新型コロナウィルスの流行で日本全国に「緊急事態宣言」が出て以降、*2テレワークは急速に普及しましたが、オンライン会議やメールでは、相手の状況がわかりづらいという不便さを感じた人も多いのではないでしょうか。

会社という場でじかに接していれば、相手の表情や態度から、忙しそうだな、あるいは余裕がありそうだな、ということが容易にわかり、報告や相談などもタイミングを計りやすかったのですが、テレワークではノンバーバルコミュニケーションが不足し、相手の状況を読み解く手段が限られるため、ストレスが溜まるのです。

友人や恋人、家族や同僚といった身近な人たちとコミュニケーションをとる際には、言葉や表情、態度、場の流れなどから相手の伝えたいことをきちんと理解できないと、人間関係がこじれてしまいます。反対にそれをきちんと読み解くことができれば、人間関係はより良好になることでしょう。

（池上彰『社会に出るあなたに伝えたい　なぜ、読解力が必要なのか？』による）

〔注〕＊1 リテラシー …ある分野に関する知識やそれを活用する能力。

＊2 テレワーク …ネットワークを利用して職場から離れた場所で勤務する形態の総称。

〔問題1〕「この『読解力』、訓読みすれば『読み解く力』ですが、これはそもそもどんな力を指すのでしょうか」とありますが、筆者の考える「読解力」とはどういうものですか。本文中の言葉を使って、五十字以上六十字以内で説明しなさい。

なお 、や 。や「 なども、それぞれ字数に数え、一ますめから書き始めること。

〔問題2〕本文の内容をふまえ、これまでのあなたのコミュニケーションのあり方をふりかえった上で、中学校に入学したらそれをどのようにしていきたいと考えますか。

次の**〔きまり〕**にしたがって、三百字以上四百字以内でまとめなさい。

〔きまり〕

○ 最初の行から書き始める。

○ 各段落（だんらく）の最初の字は一字下げて書く。

○ 段落をかえたときの残りのますめは字数として数える。

○ 、や 。や「 なども、それぞれ字数に数える。ただし 。と 」は同じますに入れ、一字と数える。